

ロシアのウクライナ侵略に抗議し、 直ちに撤退、平和の確立を求める決議

2022年3月1日 自交総連第4回中央執行委員会

2022年2月24日、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を開始、ミサイル攻撃や地上軍の侵入で民間人を含む死者・負傷者が多数発生している。これは、まぎれもない侵略戦争であり、平和を希求する労働組合、自交総連は、ロシアの軍事侵略を糾弾し、ロシア政府・プーチン大統領に厳しく抗議する。

ロシアの侵略行為は、国連憲章に反し、各国の主権と独立を互いに尊重し、国際紛争を解決するために武力行使をしないという21世紀の世界秩序を乱暴に破壊するものである。ロシアに、直ちに侵略行為をやめ、軍隊を撤退させることを求める。

ロシア・プーチン大統領は、侵略行為の開始にあたって、ロシアは世界最大の核保有国であることを強調し、反撃をすれば、核使用もありうるという威嚇を行った。核廃絶を求める被爆国日本の労働組合として、断じて容認できない。

日本政府は、ロシアの蛮行をやめさせるために、世界各国と協調して外交努力で必要な措置をとり、平和的解決のために力をつくすべきである。

国内の一部に、ロシアの侵略に乗じて、国を守るためには軍拡や核武装が必要だとなえ、これを憲法9条の改悪に利用しようとする勢力がある。憲法9条は、第二次世界大戦の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、今回のロシアのように他国を軍隊で侵略することのないように歯止めをかけるものである。

憲法9条を世界に広めることこそ戦争のない世界をつくる道であり、軍事力に軍事力で対抗し、核兵器で威嚇しあうことは、核戦争で人類を滅ぼしかねない危険な道である。自交総連は、軍拡、核武装、改憲策動に断固反対する。

戦争で犠牲になるのは、普通にくらしている労働者とその家族であり、すでにウクライナでは空爆で命を奪われ、仕事や職場を奪われ、家族が分かれて避難せざるを得ない人々が多数発生している。労働者が連帯する組織である労働組合は、常に平和を願い、戦争を憎んできた。いま、平和を求める世界中の労働者・労働組合とともに、悲惨な戦争を直ちにやめることをつよく求めるものである。

以上